

桐生西ロータリークラブ週報



2013-14年度RIテーマ **ロンD.バートンRI会長**

ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES **ロータリーを実践し みんなに豊かな人生を**

例会日時 毎週金曜日 12:30 ~ 13:30
 例会場・事務所 桐生市堤町3-5-23 桐生プリオパレス
 TEL 0277-22-9155 ・ FAX 0277-44-2777
 Eメール kiryu-nishi@rid2840.jp URL http://www.rid2840.jp/kiryu-nishi

会長 阿左美博 広報活動委員長 家住慧路 広報活動委員
 幹事 高森 勉 クラブ会報・雑誌担当 金子福松 根本正則・船戸義澄
 羽鳥 隆(歴史編集・IT・CICO担当)

No. 1942

2014年5月30日発行

第2061例会 (2014・5・23) 報告

- | | |
|------------|-----------------------|
| 1. 点 鐘 | 6. 幹事報告 |
| 2. ローターソング | 7. 食 事 |
| 3. 来訪者紹介 | 8. 委員会報告 |
| 4. 新会員入会式 | 9. 卓 話 本町四丁目町会長 蓮 直孝様 |
| 5. 会長報告 | 10. 点 鐘 |

◆ピジター
 本町四丁目町会長
 ◆新会員入会式

蓮 直孝様

野村 滋君
 (株)タイムプロデュース
 代表取締役
 職業分類:ホテル業
 推薦者:
 中野幸三郎君
 七五三木正君



阿左美博会長の歓迎挨拶:

今年度、三人目の新入会員をお迎えすることができ、大変嬉しく思います。野村様はご子息に社長職を譲られ、悠々自適な生活をされておりますが、この度、中野パスト会長はじめ諸会員のご尽力により、目出度く入会の運びとなりました。

ロータリーには4つの奉仕の柱がありますので、共に学びながら親睦を深め、ロータリーライフを楽しんで頂きたいと思っております。どうぞ、末永いお付き合いをお願い致します。

中野幸三郎君より野村滋君の紹介:

野村君は、昭和24年3月のお生まれで、広沢町にお住まいです。ご家族は奥様と長男ご夫妻、お孫さんお二人の6人家族です。1970年に(株)野村建設工業を起業され、39年間社長を務め、現在は会長職です。また土浦と前橋でホテル業を営む会社の社長としてご活躍されております。その他にも数々の公職を務めております。趣味は旅行、読書、ゴルフだそうです。皆様、どうぞ宜しくお願い致します。

野村滋君のご挨拶:

伝統ある桐生西ロータリークラブへの入会のご承認、誠にありがとうございます。私の経歴は、

推薦者の中野さんがお話し下さいましたので、割愛させて頂きます。人前に出るのが嫌いで、たてまえと本音の使い分けが苦手なものですから、誤解を与えてしまうことが多々有ろうかと思っておりますが、どうぞ宜しくお願い致します。クラブの名を汚さぬよう、一生懸命務めさせて頂きます。

◆会長報告 阿左美会長

1. 新会員野村滋君の会務分担ですが、クラブ運営委員会所属と理事会で決定致しました。
2. 先週の早朝清掃では、皆様に参加ご協力頂きまして、有難うございました。その時、正田会員からお話し頂きました月桂樹四世ですが、故井本会員のご自宅庭に2本まだ残っております。それでご親族に了承を得て、クラブで貰い受け、1本は栃尾RCさんへ、残りの1本は根本パスト会長の事業所の庭に移植させて頂きました。
3. 13日(火)に前RI会長の田中作次氏をお迎えしての長岡市内のロータリークラブ合同夜例会に参加して参りました。詳しくは、本日のクラブ会報に載っております。また、その時、田中作次前RI会長に講話をして頂きました。大変内容の濃い感動的なお話でした。原稿を栃尾RCさんが送って下さいましたので次週のクラブ会報でご紹介したいと思います。
4. 本日午前10時から桐生市市民文化会館で、次年度の桐生市社会を明るくする運動の推進委員会がございまして、次年度社会奉仕担当の坪井良行君が出席されました。
5. 明日24日(土)、次年度の会員増強セミナーが前橋問屋センター会館で開催されます。向田会長エレクトと近藤会長ノミニ、次年度の会員組織委員長の正田会員、次期副幹事の乾会員の4名が出席します。
6. 明後日25日(日)は、桐生西ローターアクトクラブが主催する、希望の家『青い鳥ぐんま』の子供達のフットサル大会が開催されます。大間々高校インターアクトクラブにも呼びかけたところ、10名参加して下さることになりました。また、当クラブから、乾奉仕プロジェクト委員長、正田RA担当、高森幹事、栗原秀一会員が参加して下さいます。

7. 日本事務局から通知がありまして、以前、ロータリーの職業宣言と呼ばれていたものが『ロータリーの行動規範』と、呼称も内容も変更になっており、また、2014年のRI理事会での英文改定に伴い、和訳も変更になりました。各テーブルに新しい行動規範を配布してありますので、ご覧下さい。

◆幹事報告

高森幹事

- ◇早朝坐禅例会の出欠席のご連絡をお早めにお願ひします。
- ◇ロータリー手帳が届いております。ご入り用の方は事務局までお申し出下さい。
- ◇家族会春のバス旅行の決算書を配布致しました。
- ◇ハイライトよねやま170が配信されました。(各テーブルに配布)
- ◇日本ロータリー親睦ゴルフのご案内が届いております。
- ◇例会変更のお知らせ
桐生RC 6/23,6/30(休) 桐生中央RC 6/12,6/19,6/26(休)
桐生南RC 6/18,6/25(休) 桐生赤城RC 6/17,6/24(休)
太田南RC 6/24 前橋中央RC 6/18,6/25
伊勢崎RC 6/4(休)、6/25 伊勢崎南RC 6/10 他4RC
- ◇クラブ会報が到着しています
桐生赤城RC 4/22,5/13 栃尾RC 1/7~4/22

◆食事メニュー

1215キロカロリー

キャベツと昆布の胡麻和え、サーモンの西京焼き、香の物、白飯、茄子と豆腐の揚げ出し、なめこと筍の味噌汁、マンゴープリン

◆委員会報告

□クラブ運営委員会

◇出席報告

新木出席担当

総数54名 (免除者9名の内5名出席の為4名を除く)
出席率対象者50名、出席率対象者出席人数35名
欠席者15名(内前メイク6名) 出席率90.00%
前々例会修正出席率91.84% (最終欠席者4名)

□拠金委員会

◇ニコニコBOX

松原ニコニコBOX担当

蓮直孝様、卓話よろしくお願ひ致します
前原君、七五三木君、栗原(秀)君、松原君
野村滋君、入会おめでとうございます
阿左美君、高森君、向田君、横塚君、石川君、
中野君、坪井君、霜村君、七五三木君、
近藤君、天沼君、須田君、下井田君
昨日両陛下が晴天の中無事旅程を終えられた事をお祝ひして 東郷(学)君
お花が届きました。ありがとうございます 小林(恵)君
そろそろ年末調整 根本君
リサイクル募金にご協力ありがとうございます 船戸君

◇ロータリー財団

石川拠金委員長

蓮直孝様、卓話ありがとうございます
阿左美君、七五三木君、下井田君、高森君、船戸君
新入会員の野村君を歓迎して
中野君、花房君、坪井君、七五三木君、塚本君
年末調整 根本君、小林(恵)君
栗原秀一さん大切なものありがとう。またお願ひし
ます 天沼君

◇米山BOX

坪井拠金委員

蓮直孝様、卓話楽しみにしています
七五三木君、船戸君、近藤君、天沼君、塚本君
野村滋君の入会を祝して 中野君、七五三木君、坪井君
例会が残り少なくなりました。もう少し 阿左美君
熊除けの鈴を買いました 小林(恵)君
年末調整 根本君
青山さん、齋藤さん、今泉さん、先日はお世話になりました
高森君

卓 話



本町四丁目町会長
蓮直孝様

「桐生祇園祭について」

毎年8月の第1金曜日から3日間にわたり開催される桐生まつりは、元来は牛頭天王(素戔鳴尊)の祭礼であるため“桐生祇園祭”と称します。昭和63年から八木節の文字が加わって桐生八木節まつりとなり、桐生まつりは八木節踊りといったイメージが先行しがちですが、桐生祇園祭の歴史と伝統は大変貴重であり、受け継がれてきた数々のしきたりを守って今日まで来ております。

平成25年度の桐生祇園祭(天王町 本町四丁目)の一連の行事をDVDに収めてありますので、本日はそれをご覧頂きながら、解説させていただきます。

1. 祇園祭祭典委員会 (出席者32名)
H25.6.6(木)PM6:00 ~ 本町四丁目共愛会館
内容・平成25年度祇園祭祭典執行(案)について
・天王町企画、各町付け祭り企画について他
2. 世話方団結式 (出席者90名)
H25.6.21(金)PM7:30 ~ 市文スカイホールB
内容・本町惣六町並びに横山町の世話方(祭典執行役若衆)が一堂に会し初めての団結式を開催
3. 各町挨拶廻り(挨拶廻り20名、各町挨拶受け役員等90名)
H25.6.28(金)PM7:00 出発

- 内容・天王町役員等が各町会に祭典執行の協力を要請
4. 世話方各町挨拶廻り(挨拶廻り18名、各町挨拶受け役員等80名)
H25.7.1(月)PM7:00 出発
内容・天王町世話方が各町会に祭典執行の協力を要請
5. 祇園祭祭典役員会 (出席者32名)
H25.7.5(金)PM2:00 ~ 美和神社社務所
内容・本年度祇園祭祭典行事決定
6. 祇園祭祭典チラシ発行(131,000部)
H25.7.16(火) 新聞折込と手配り
7. 大幟掲揚(町内役員・世話方・頭・大工・交通整理他25名)
H25.7.28(日)AM5:00 旧富士銀行前通りはさみ二流
8. 御旅所(祭典期間中の御神輿安置場所) 設営
H25.7.29(月)AM7:00 本町四丁目十字屋前
9. 御神輿御霊入れ (出席者32名)
H25.8.1(木)PM1:30 ~ 美和神社
内容・神殿にてお祓いの後御神輿を神殿前に安置
10. 御神輿出御(宵の出御) (参加者80名)
H25.8.1(木)PM8:00 出発 美和神社→天王町御旅所
内容・神社より御神輿を担い巡行し御旅所に安置
11. 衣装付け届け(挨拶廻り世話方100名、挨拶受け各町役員25名)
H25.8.2(金)PM3:00 出発
内容・各町世話方が今年の衣装をつけ全町会挨拶廻り
12. 御神輿渡御 (参加者325名)
H25.8.3(土)正午~御旅所で式典、PM1:00 渡御開始
13. 鉦の曳き違い(鉦巡行役・曳き綱牽引者・警備他220名)
H25.8.3(土)PM6:50 ~
内容・三丁目と四丁目の鉦の巡行曳き違いと子供お囃子の競い合い
14. 御神輿還御 (参加者80名)
H25.8.4(日)正午出発 天王町御旅所→美和神社
内容・御旅所で式典後、御神輿を美和神社に還御
15. 千秋楽付け届け(挨拶廻り世話方100名、挨拶受け各町役員25名)
H25.8.4(日)各町 PM10:15 出発、天王町 10:45 出発
内容・各町世話方が祭典の無事終了を告げに全町会挨拶廻り

長岡4RC合同夜例会講話



2012-13年度RI会長
田中作次様
(八潮RC)

「国際ロータリー会長を
体験して」

長岡、長岡東、長岡西、栃尾RCの皆様こんにちは。皆様のクラブは長い年月にわたって、地域社会に奉仕し、発展されてきたことは並大抵のことではございません。私にとりまして、直前国際ロータリー会長として、また、日本人ロータリアンとして、大変嬉しく感じております。

皆様のクラブが設立されてからこれまでの期間に、世界では、多くの変化や進歩や出来事がありました。今日の世界は、当時とはまったく違う場所のようにも思われることもあります。しかし、今も昔も変わらず、ロータリーは地域社会に奉仕し、ここ日本にもしっかりと根付いて発展して参りました。

皆様のクラブは多くの優れた資質を十分に生かし、奉仕と親睦を推進して下さっていることに深く感謝申し上げます。創立から現在まで活発に活動しておられる皆様のクラブは、これからも今まで成し遂げてこられたように、さらに発展していかれることでしょうか。新会員を増やし、また、現会員の皆様もさらに活発に奉仕し、クラブのいろいろな役目を務めるなどして、積極的に参加していただけることを願っております。

世界の環境変化とともに、クラブもその時代に合わせ変化させることが重要です。どのような変化を取り入れるべきかは、主体性を持った各クラブが理事会を通して検討する必要があります。例えば年会費が高すぎないか、魅力あるプログラムが用意されているか、意義ある奉仕活動が行われているかどうかなど、再検討の必要性もあるでしょう。

これらの項目に関しても新しい会員が入会した時に、彼らの考えを聞いてみるのも一つの方法です。「ロータリーに関心を持ったのは何故か」、「クラブが取り組める地域社会のニーズは何か」「ロータリーで何をしたいか」等、新会員の声に耳を傾けることで、これまでに見えなかった新しいアイデアが浮かぶかもしれません。

また、国際ロータリーの長期計画を参考に、クラブの3ヶ年長期計画を立てておられると存じます。ロータリーは常に目標を立てそれを目指して活動します。生きている、ありとあらゆるものが成長するように、組織も成長しなければ存続できません。長い歴史を持つ皆様のクラブは、このことをよくご存知の事と思います。そして皆様のクラブも、設立された時と全く同じ姿ではないでしょう。幾世代にもわたり、前の世代が去り、次の世代の新しい会員が入会します。毎年役員が交代し、時々とは異なったプロジェクトが行われます。

しかし、重要なことは、そこに常にロータリークラブがあるということです。表層が様々に変化しても、ロータリーの中核、つまり奉仕への献身は変わりません。その意味ではクラブはいつの時代も同じクラブです。皆様のクラブのお陰で、この地域は以前よりも住み良い地域社会になりました。そして、これからも末永く、このクラブと共に、この地域で人々が助け合い支え合って、発展していくことでしょうか。

ロータリークラブのある地域社会は、クラブのない地域よりも必ず良い場所になると私は信じています。ロータリーがある地域社会の人々の人生は、もっと豊かなものになると思います。ロータリーが大きくなれば、それだけ強くなりますが、ただし、会員数を増やすことだけを目的に新会員を入れても、ロータリーは強くなりません。ただクラブに入会するのではなく、真のロータリアンとなれる人を迎え入れ、クラブで指導してこそ、ロータリーは強くなれると思います。

私が八潮ロータリークラブに入会した日は、新しい人生を歩み始める第一歩となりました。人々とのつながり、奉仕を通じた満足感や達成感、そして平和を、それまでよりも深く感じるようになりました。私は、この気持ちを多くの人に伝えていきたいと考えておりますが、その方法の一つが、ロータリーへの入会をお誘いすることだと考えています。

入会見込者に伝えなければならないのは、ロータリーが素晴らしい団体であるということ、そしてロータリーへの入会によって、彼らの人生がより幸せになるということです。ここにいらっしゃる私たち全員が、会員であることの素晴らしさを知っており、ロータリーを愛しています。私たちがロータリーで見つけた幸せを、多くの人々に知っていただきたいと思っております。

さて青少年奉仕は、ロータリーで最も新しい五つ目の奉仕部門です。長期的な影響を生み、今の人々だけでなく、後世のために何かを残そうというロータリーの思いが、青少年奉仕に反映されています。青少年奉仕は、青少年とその家族、そして未来の世代のための、すべての奉仕を含んでいます。

識字率向上、職業訓練、母親のための保健プログラム、子どもたちの栄養強化といった活動から、ローターアクト、インターアクト、ロータリー青少年交換などのプログラムに至るまで、ロータリーでは、若者たちがベストの状態での人生の第一歩を踏み出せるよう支援しています。

一例として、現在、ナイジェリアでは、18人に1人の女性が、出産によって命を落としています。ロータリーは、母親の保健のための取り組みを通じて、このような悲惨な状況をなくし、母親のいない子が一人でも少なくなるよう、活動しています。さらにロータリーは、20億人の子どもをポリオから守ってきました。かつて世界を苦しめていたこの悲惨な病気は、撲滅の寸前にあります。ロータリアンの長年の活動によって、世界からポリオがなくなる日は遠くないはずですよ。

また、それぞれの地元地域で、子どもたちに読み書きを教え、貧しい家庭の子どもに本を贈るといった活動もしています。読書を通じて、子どもたちは夢を膨らませます。本は、新しい世界への扉を開くものです。

青少年交換では、世界がいかに大きいかを、直に見てもらうことができます。異文化を体験し、視野を広げ、新しい人々との出会いを通じて、平和を推進し、思いやりの心を育てることができます。また、ローターアクトクラブとインターアクトクラブを通じて、奉仕の大切さを伝えることができます。

ロータリアンは、子どもや青少年と接しながら、一人ひとりの可能性を広げ、彼らの人生を変えています。彼らがどのような大人になるのか、ロータリーからのプレゼントが彼らの未来にどう影響するのかは、誰にも分かりません。しかし、今、私たちがしていることが、将来、彼らの人生を通じて、社会に良い影響を与えていく事は確かです。

青少年奉仕は、ロータリーにおいて極めて重要な部分です。未来の世代がロータリーを頼りにしているように、ロータリーも彼らに頼っています。ロータリーは発展し続け、新しいロータリアンを生み出していく

必要があります。将来、ロータリーの活動を継承していくのは、ほかでもなく、次世代のロータリアンです。私たちは、熱意や知識や経験を若い世代に引き継ぎますが、同時に、彼らから多くを学ぶことができます。

ロータリーが大切に、必要としていることの多くは、情熱とか積極性など、若さを連想させる要素です。若者は、恐れ知らずです。できない理由の言い訳を探す代わりに、やり遂げる方法を見つけようとしています。

ロータリーでは目標を高く掲げていますので、このような姿勢に共感できる方も多はずです。例えば、私たちが掲げた目標は、数人の子どもにポリオの予防接種をすることではなく、ポリオを世界から撲滅することでした。目標を高く掲げてはじめて、一生懸命にがんばり、限界を押し広げようという意欲が沸くものです。

若者たちが持つもう一つの特徴は、柔軟性です。ロータリーが発展するには、変化する世界とともに、私たちが変化する柔軟性を備えなければなりません。新しいアイデアや考え方に心を開くことも必要です。

他人の意見や感想を聞き、批判に耳を傾けることが大切だと、常々、私は申し上げてまいりました。他からの批判を無視したいと思うのは当然ですが、そこから学ぶことも多いものです。私はビジネスマンでしたので、顧客を無視して成功はできないことを心得ております。クラブや地区について問題を指摘する人がいたら、真剣に耳を傾けるべきなのです。

そうした意見に進んで耳を傾け、新会員に積極的に参加してもらえば、一人一人がロータリーの重要な一員であり、ロータリーの未来に対する責任を共有しているという自覚が生まれるでしょう。

毎年、青少年交換プログラムで、何千という高校生を海外に派遣しています。また、ロータリーのコミュニティーには、何十万人という学友がいます。これらの学友たちに入会してもらうには、どうすればよいでしょうか。

例えば、学友の行事を開催したり、ソーシャルメディアの力を活用できるでしょう。また、新しいインターアクトクラブやローターアクトクラブを設立したり、インターアクターとローターアクターのつながりを強めることもできるでしょう。次世代に「超私の奉仕」を引き継ぐことは、時間をかけて行う価値のあることです。

会員基盤を成長させることは、すべてのロータリアンが果たすべき役目です。それは、単に会員の数を増やすというだけでなく、もっと多くの人とロータリーのプレゼントを共有することを意味しています。

ここで皆さまに一つのことを提案したいと思います。先ほども少し触れましたが、ご自分が考えるロータリーの強みを、3つか5つ書き出してみてください。これらは、皆さまが入会したきっかけや、ロータリーを通じてご自分の人生が豊かになった理由にもつながるものです。これらの強みを書き出したら、これをご友人や同僚に伝えて下さい。

また、重要なことは、皆さま自身が、ロータリーとは何か、自分にとってロータリーが何を意味し、なぜ自分がロータリアンであるのかということを理解し、誰にでも説明できるようにしていただきたいと思えます。私たち一人ひとりが、これを3分、5分などの短い時間で説明できるよう準備しておく必要があります。

私にとって、「超私の奉仕」とは、人生そのもののあり方です。人は誰でも一人で生きて行くことはできません。誰もが、地域社会、家庭、学校、職場などで、他の人々と人生を分かち合っています。

誰かと人生を分かち合いたいという気持ちは、人間として自然なことです。自分が幸せな時や悲しい時、

成功した時や困難に直面した時、誰かにそばにいてほしいと感じるものです。それと同じように、誰かが私たちのことを必要としています。

地元地域社会での奉仕は、人を助けるだけでなく、自分自身にとっても得るものが多くあるはずで、奉仕活動を通じて、近所の人たちをもっとよく知ることができます。また、その人たちに、地域社会の大切さを伝えることができます。

「世界でよいことをしよう」と言葉で言うだけでなく、実際に行動で示すことが重要です。活動の大小は、問題ではありません。大切なのは、自分たちの手で、より良い世界を実現しようと努力することです。また、私たちロータリーがそのような努力をしていることを、人々に知っていただくことです。

これまで私は、世界各地域の訪問を通して深く印象に残った数々のプロジェクトがあります。ケニアでは、親がエイズで亡くなったために、孤児となった子供たちのための施設を見学しました。このような子どもたちはあまりにも多く、施設に入ることのできない子供たちが沢山います。こうした状況を認識した地元のロータリアンには、援助の手を差し伸べ、他の国のロータリアンと協力して、施設と学校を設けました。このプロジェクトによって、子供たちは路上の生活から救われた上、ベットと食事に加えて、介護や教育を受け、生活技能を習得し、家庭の雰囲気と希望のある未来が与えられたのです。

このようなプロジェクトを一つ地元社会が単独で支援することは困難です。しかしロータリーを通じて、いくつかの地域社会が協力すれば、子供たちを助けることができます。

イスラエルでは、世界で最貧国の子供たちに現代的な心臓医療を提供しているロータリーのプロジェクトを知りました。このプロジェクトでは、小児心臓外科医が、アフリカ、ヨーロッパ、中東に赴き現地の医師に手術や集中治療の研修を行っています。さらにこれまで18年間に、1万7千人を超える子供たちがテルアビブにやってきて心臓救命手術を受けました。

他の多くのロータリープロジェクト同様、このプロジェクトは、当初の計画よりも多くのことを成し遂げてきました。もちろん当初も心臓疾患を抱える子供たちに現代医療を提供し、長く健康的な人生を与えることを目標としていましたが、目標への過程で、平和への構築にも役だってきました。

手術を受けにやってくる子供たちの半数は、パレスチナ人民居住区や、ヨルダン、イラクから来るアラブ人の子供たちです。彼らはイスラエルを嫌い、恐れるよう教えて育てられました。このプロジェクトを通じて家族も含め、それまで見ることもなかった現実を、自分の目で見る機会に恵まれました。

政治のないところで、両サイドの人たちが結び付いたのです。そこにある思いやりの心、コミュニケーション、相互理解、それ以外の方法では実現しなかったでしょう。これこそ、私たち異なる背景を持っている人たちにとっては、平和を構築するための最善の方法ではないでしょうか。このような行動を通じて、奉仕の心を多くの人々に持って頂き、幸せと希望に満ちた世界を作り、究極的には、世界平和という目標を実現できると私は思います。

ロータリーは長年、私の人生の中心となってまいりました。ロータリーのおかげで、世界を違った視点から見るできるようになりました。ロータリーは、地域社会や国際社会に影響を与えられるだけでなく、私がそうであったように、一人の人間の人生に大きな影響を与えます。ロータリーの真の素晴らしさは、そこにあるのではないのでしょうか。

ロータリーへの入会理由はそれぞれ異なるかもしれませんが、誰かの人生に喜びをもたらすことによって、自分自身が幸せになれるということは、多くのロータリアンにとって、ロータリアンであり続ける理由となっているのではないのでしょうか。これこそが、ロータリーの精神であり、平和な世界を築くために必要な精神であると信じています。

私はRI会長になって以来、新しい体験をたくさんさせていただきました。初めてアフリカそして南米の国々を訪れたのはじめ、インド、モンゴル、フィリピン、ネパール、ヨーロッパ、米国の各都市など、2年半にわたり世界各地を訪問することができ、訪れる先々で、貴重な体験をさせていただきました。

アムステルダムでは、証券取引所の開始の鐘を鳴らす栄誉に授けられました。そしてパチカン宮殿では家内の京子と共にローマ法王との面会が許されました。

また、壊滅的な打撃をもたらしたハリケーン「サンディ」の直後にニューヨークの国連本部を訪れ、モンゴルでは遊牧民のテントの中に入りました。どこへ参りましても、現地の方々から温かい歓迎を受け、自宅でもてなしをして頂いたり、友人のように接していただいたことに、感動いたしました。また、このロータリーのピンを身に付けられることの素晴らしさを、改めて実感いたしました。どこへ行っても、誰に会っても、ロータリーのピンを付けている人を見れば、その人がどういう人なのか分かります。

どこに住んでいようと、何語を話そうと、どんな服を着ていようと、ロータリーのピンを付けている人なら、信頼することができず。同じ価値観を持ち、腹を割って話し合い、友情を分かち合うことができます。私は新潟県で生まれ、現在は八潮市に住んでいますが、ロータリアンとしてどこを訪れても、ふるさとを訪れているような気持ちになることができます。

私が小学生の頃、週に一度日曜日に母と私は、市場まで往復40キロの道を、リヤカーを引いて野菜を売りに行きました。その頃は日本人以外の方々とは、一度もお会いしたことがなく、私が生まれた村が私の全世界でした。ですから、私はいつも、旅することを夢に見ていました。遠くの町や国を夢見ながら、どんな所なのだろうと想像していました。それ以来、幸いにも、頻りに旅をする機会があり、自分で思いもよらないほど、世界のあちこちを訪れることができました。

しかし、ロータリーでの経験ほど私の視野を広げてくれたものはありません。ロータリアンになるまで、私の目に入っていたものと言えば、仕事、家族、顧客、競争相手など、身近なものばかりでした。旅に出ても、お決まりのものしか見ていませんでした。その背景にあるもの、自分と関わりがないと思うものには、気にも留めていませんでした。しかし、私は事業拡大のために東京から埼玉県八潮市に本社を移しました。それから間もなく八潮にロータリークラブが出来ることを知りました。これは今から39年前の話です。

当時ロータリーという組織の意味も内容も全く知りませんでしたので、その頃のイメージは駅前のロータリー広場で私たちが何かをするのかと思っていました。ところが、まもなく東京から移ってきたばかりの私に「田中さんロータリーを作るので貴方も是非参加して下さい。」と言われました。

その方のお名前は関考友さんという地元の有志でしたので、この地域のためになる組織や団体ならば進んで参加すべきという考えで了解しました。この様な経緯を経て八潮ロータリークラブに入会しました。それから1～2年間はあまりなじみずじみで只出席だけをしていました。その後、ある方が例会に来て、職業奉仕についてお話を下さったのです。

私は、その日から自分の生きる目的や人生の考え方が少しずつ変わってきました。収入や、売り上げを増やすことや、自分の会社を他の会社よりも良くし、大きくすることだけでなく、人として、職業人として、もっと良い、もっと高い目的を持って人生を送りたいと思うようになったのです。

そしてその為に、他の人たちの役に立つこと、そして地域社会の発展に少しでも寄与することが、私にとって人生で最も大切なことだと思ふようになりました。更に私は、どんな些細なことでも、地域や世界社会で困っている人々を助けることが、いずれは平和につながることに気づきました。

ロータリーは、保健、衛生、食糧、教育などの人々の基本的なニーズに、最も必要とされている地域で応えることができます。そして、友情、つながり、思いやりといった、私たちの心のニーズにも応えることができます。さらに、国や民間の友情と寛容を推進することで、ロータリーは最も伝統的な意味での「平和」を、つまり、互いを理解し合う後押しをしてくれます。

ロータリーの奉仕活動を通じて、私たちは、大きな問題のように見えることでも、力を合わせれば、すぐに解決できることを学んでいます。人を思いやることを学び、自分と違った境遇の人々と知り合うことで、人は皆同じであると理解できます。

ロータリーの奉仕活動を通じて、私たちは、何かを達成しようとするなら、対立より協力を選ぶのが得策であることを知ります。他の人の長所と短所、両方を尊重することを理解できます。そして、どの様な人からも必ず得るものがあり、教えられるものがあることを学びます。私は、「超我の奉仕」は単なる標語ではないと考えております。それは、誰の人生をも、さらに豊かで、有意義なものにする生き方を示していると思えます。ロータリアンは、自分よりも、ほかの人のニーズを重視します。

自分の為だけではなく、社会全体のためを考えます。「超我の奉仕」という言葉は、人生で本当に大切なこと、エネルギーを注ぐべきことは何なのかを、私たちに教えてくれる言葉です。そうすることで、より平和な世界の基盤を築くことができると考えます。それは、「平和」をどのように定義するにしても、私たちは奉仕活動を通じて、平和をもっと現実に近づけることができるからです。

また、「超我の奉仕」は、人はみな自分だけでは生きていくことができないということを教えてくれます。人との関わりのない人生は、空しく、つまらないものですが、家族、地域社会、そして人類全体における自分の役割を常に意識して、つまり、人のために生きることで、この世界における自分の役割がはっきりと見えてきます。

私の世代は、戦後に日本で育った最初の世代でした。ですから、私たちが、それほど平和を重視するのは、当たり前かもしれません。私は一介のビジネスマンです。ただ、ビジネスマンとしての長年の経験から、私は、事業を成功させるには、顧客の満足を追求する以外にないという考えにたどり着きました。顧客に喜んでもらえるれば、事業も成長します。そうすれば私自身も幸せになれる。しかし、それは事業が成功しているからだけではなく、人を幸せにしてあげることができたという認識があるからです。

そして、広島、ベルリン、ホノルルで開かれた3回のロータリー世界平和フォーラムの推進にも、ご協力を頂き感謝いたします。また19年前に私がガバナーだった年度、私たちの地区で、ロータリー財団への寄付額を世界一にすることを、最優先目標といたしました。この目標を達成できた時、私たちの地区のロータリー

アンの努力を心から誇りに思い、本当にありがたく感じました。何よりも嬉しかったことは、たくさん集まった寄付で、世界でたくさん良いことができるということでした。ここにご出席の皆様は、ロータリー財団へのご支援を通じて、「世界でよいことをしよう」という財団のモットーを実践されています。

「財団は、ロータリーという組織を動かすエンジンである」と、よく表現されます。これは、ロータリアンが活動に励み、財団が活動のための燃料を提供するという、国際ロータリーと、ロータリー財団の関係を、的確に表しています。財団のおかげで、ロータリアンはさらに多くの活動を行うことができます。しかし、財団がリソースを維持し、発展できるのは、ロータリアンからの弛みない支援があるからです。

ロータリー財団への寄付は、賢明な投資です。なぜなら、寄付したお金が有意義な活動に生かされるからです。寄付が適切に活用されると信じて、お金を託すことができます。

財団の力を借りて、ロータリーは、多大な成果をもたらす国際的なネットワークへと発展して参りました。強い財団があるからこそ、ポリオ・プラスという壮大なプロジェクトが開始できました。皆様ご存知のように、世界各地のロータリアンの懸命な活動とご支援により、ポリオは「あと数年」で撲滅できるところまで来ています。

1985年以来、ロータリーはポリオ撲滅の最先端に立ち、世界のロータリアンの力強いご支援のもとに戦って参りました。そして、間もなく今世紀における快挙を成し遂げようとしていると同時に、私たちはロータリアンであることを誇りに思っています。

ロンバートン RI 会長は国際協議会で次のように述べられました。

「ポリオの撲滅がかつてないほど実現に近づいている今、私達は、ロータリーの歴史における一つの章の終わりのページを書こうとしています。そして、未来の夢計画の開始とともに、新たな章の第一ページを書き出そうとしています。未来の夢は、ロータリー財団の新たな時代の幕開けです。ロータリーの素晴らしさをすべて取り入れた未来の夢は、さらに大きく、持続可能な国際プロジェクトを促すと同時に、地域社会のニーズに応える地元プロジェクトでの柔軟性を高めることによって、ロータリーを新しい次元へと昇華させるものです。

従来のやり方を大きく変えることになりましたが、新

システムへの移行においてクラブを援助することは、皆さんの仕事の大きな部分です。地区ロータリー財団委員長と協力しながら、未来の夢や変化の恩恵についてクラブが理解し、活動の中でリソースを最大活用できるような支援することが、ガバナーである皆さんの仕事です」とロンバートン RI 会長が話されました。

大規模な奉仕プロジェクトを行おうとするとき、その資金が確保できるのは、財団があるからです。ロータリー財団は、どのクラブにも平等に機会を与えてくれます。資金がたくさんあるところではなく、活動が一番必要とされるところにリソースを提供しながら、世界中の人々に、健康、読み書きの力、そして希望を与えてきました。

ロータリーは、財団を通じて、ロータリー平和センターを設立しました。平和センターは、平和を推進し、地域社会や国際舞台で活躍できるリーダーを育成することを目的としております。平和フェローは、将来、国際協力や、平和、紛争解決の分野で活躍できるリーダーとなることが求められています。このプログラムは、私にとって、とても重要なものです。このプログラムの重要性を信じ、力強くサポートしてくださっている方々に、心からお礼申し上げます。

皆様がロータリー財団、そして世界のために注いでおられる熱意とご尽力に、心より感謝いたします。皆様は、財団のモットーが表すとおり、「世界でよいこと」を行い、ロータリーという組織に必要な燃料を与えて下さっています。皆様のお陰で、ポリオのない世界、平和な世界に、また一歩近づくことができるでしょう。

ロータリーのビジネスは、利益の追求ではなく、平和の追求です。ですから私たちにあって、報酬はお金を手に入れることではなく、自分の努力によってより良い、より平和な世界が実現するのを見届けることにあります。昨年度世界の地区、3万4千以上のクラブと120万の会員が一年間、「奉仕を通じて平和を」の精神をもって、ロータリーの究極の目標である平和な世界に向けて邁進していただいたことに、心から感謝申し上げますと共に、皆様のクラブのますますのご発展をご祈念申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。

ご静聴有難うございました。

《次例会予告》

6月6日(金) 早朝坐禅例会

点鐘 AM6:30、場所 光明寺



2014年5月13日(火) 長岡4RC合同夜例会 2012-13年度RI会長 田中作次ご夫妻を囲んで 於 割烹「大覚」



5/12根本運送株敷地内へ移植した月桂樹四世(内1本は栃尾RCへ)